

令和5年度（対象4年度）
南木曽町地方創生総合戦略
政策評価報告書

内 容

南木曽町地方創生総合戦略の評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

基本目標と重要業績評価指標（KPI）

基本戦略1

暮らしを守る基盤づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

基本戦略2

子育て世代が戻ってこられる雇用の創出・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

基本戦略3

子育て世代のUIJターンの拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

基本戦略4

子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり・・・・・・・・・・ 40

南木曽町

南木曾町地方創生総合戦略の評価について

1 趣旨

南木曾町地方創生総合戦略は PDCA サイクルを活用しながら着実に推進することとしており、進捗について毎年度評価を実施し、今後の施策や事業の改善に活用します。

地方創生総合戦略会議や地方創生検証会議など外部の目を確保しながら客観的に基本目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を把握し、評価結果は議会に報告すると共に町民に公表します。

2 地方創生総合戦略の進捗状況の概要

令和4年度の総合戦略に掲載されている基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況の概要は以下のとおりです。

（1）基本目標（数値目標）の進捗状況

4つの基本戦略に掲げた10個の数値目標について、目標達成に向けた進捗状況を3段階で評価しました。

基本戦略	指標名	R4 目安値	R4 実績値	進捗 区分
暮らしを守る基盤づくり	地域支え合いの会活動件数 R2：400件 → R6：300件	300件	210件	努力を要する
	中山間地直接支払制度加入面積 R2：172ha → R6：165ha	165ha	165ha	順調
	商工事業者数（商工会員数） R2：265団体 → R6：265団体	265団体	245団体	概ね順調
子育て世代が戻ってこられる雇用の創出	観光宿泊者数 R2：130,000人 → R6：130,000人	130,000人	143,800人	順調
	新規林業従事者数 R2：1人 → R6：（累計）5人	1人	4人	順調
	誘致した企業 R2：－ → R6：（累計）1企業	－ （累計）	0企業 （累計）	実績値なし
子育て世代のUIJターンの拡大	20代～30代の転入者数 H27～R1：235人→R2～R6：380人以上	361人以上 （R4累計）	415人 （R4累計）	順調
	20代～30代の転出者数 H27～R1：258人→R2～R6：340人以下	318人以下 （R4累計）	475人 （R4累計）	努力を要する
子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり	婚姻届出数 R2：15件 → R6：15件	15件	8件	努力を要する
	出生数 R2：20人 → R6：20人	20人	15人	努力を要する

(2) 重要業績評価指標 (KPI) の進捗状況

32 個の重要業績評価指標(KPI)について、基本目標(数値目標)と同様に 3 段階で評価しました。

【進捗区分】

概ね以下の基準に従って進捗状況进行评估しています。(下記の基準になじまない指標もあるため大まかな参考として活用)

順調 : 実績値が目安値以上

概ね順調 : 実績値が 80%以上

努力を要する : 実績値が 80%未満

実績値なし : 実績値が無いため評価できなかったもの

基本戦略	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
暮らしを守る基盤づくり	3 (33.3)	5 (55.6)	1 (11.1)	0 (0.0)	9 (100.0)
子育て世代が戻ってこられる雇用の創出	3 (37.5)	0 (0.0)	3 (37.5)	2 (25.0)	8 (100.0)
子育て世代の UIJ ターンの拡大	7 (87.5)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	8 (100.0)
子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり	1 (14.2)	2 (28.6)	2 (28.6)	2 (28.6)	7 (100.0)
計 (%)	14 (43.7)	7 (21.9)	7 (21.9)	4 (12.5)	32(100.0)

※四捨五入により割合が 100%にならない項目あり

(3) 具体的な取組みの実施状況

総合戦略に掲載されている具体的な取組ごとにその実施状況と事業効果を検証しました。

【実施状況】

以下の基準に従って実施状況を区分しています。

- ◎ 完了 : 令和4年度中、もしくは令和3年度に取組みが完了したもの
- 実施中 : 現在取組み中のもの又は年度を通して継続的に実施するもの
- △ 実施予定 : 現在取組みを予定しているもの
- × 実施未定 : 取組む目途が立っていないもの

基本戦略	◎完了	○実施中	△実施予定	×実施未定	計
暮らしを守る基盤づくり	2 (4.4)	44 (95.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	46 (100.0)
子育て世代が戻ってこられる雇用の創出	1(4.9)	48 (95.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	49 (100.0)
子育て世代のUIJターンの拡大	0 (0.0)	24 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	24 (100.0)
子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり	0 (0.0)	44 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	44 (100.0)
計 (%)	3 (1.8)	160 (98.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	163 (100.0)

※四捨五入により割合が100%にならない項目あり

【事業効果】

総合戦略に掲載されている具体的な取組のうち実施状況が「◎ 完了」、「○ 実施中」のものについて、以下の基準に従って検証しています。

- A 非常に効果的
- B 概ね効果的
- C あまり効果的でない
- D ほとんど効果がない
- E 未実施

基本戦略	A 非常に効果的	B 概ね効果的	C あまり効果的でない	D ほとんど効果がない	E 未実施	計
暮らしを守る基盤づくり	19 (41.4)	22 (47.9)	3 (6.5)	0 (0.0)	2 (4.2)	46 (100.0)
子育て世代が戻ってこられる雇用の創出	15 (30.6)	28 (57.1)	2 (4.1)	0 (0.0)	4 (8.2)	49 (100.0)
子育て世代の UIJ ターンの拡大	9 (37.5)	12 (50.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	2 (8.3)	24 (100.0)
子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり	26 (59.1)	12 (27.3)	2 (4.5)	0 (0.0)	4 (9.1)	44 (100.0)
計 (%)	69 (42.3)	74 (45.4)	7 (4.3)	1 (0.6)	12 (7.4)	163 (100.0)

※四捨五入により割合が 100%にならない項目あり

基本戦略 1

暮らしを守る基盤づくり

基本目標

自然と文化、地域のつながりを土台とした確かな暮らしを南木曽一丸で創造する。

数値目標の進捗状況

指標名	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
地域支え合いの会活動件数	目安値	件	H30	400	300	300	300
	実績値		382	299	271	210	
	進捗区分			努力を要する	概ね順調	努力を要する	
中山間地直接支払制度加入面積	目安値	ha	H30	172	172	165	165
	実績値		172	165	165	165	
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	順調	
商業事業者数（商工会員数）	目安値	団体	H30	265	265	265	265
	実績値		262	250	246	245	
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	概ね順調	

総合分析

○人口減少社会においても、町民が将来に渡って夢や希望持って幸せに暮らすことができるまちづくりを進めるための施策を実施した。

○数値目標や基本目標に係る重要業績評価指標（KPI）は 12 項目中 4 項目が「順調」、6 項目が「概ね順調」、2 項目が「努力を要する」となった。

○各具体的な取組みについての事業効果の評価は、コロナ禍ではあったが概ね A 又は B であり実施している個別の取組みごとの効果は良好である。このため、具体的な取組みを有機的に結びつけてより効果の上がる取組みにしていくことが重要である。

○年間バス利用者が、数値目標こそ達成していないが R3 年に比べ大幅に増加している（約 21400 人→約 33600 人）。新型コロナの影響により観光客数の減少が続いたが、規制緩和に伴い利用者が増加したと考えられる。地域住民の足としても感染対策などを行い、役割を果たせた。

重要業績評価指標（KPI）と具体的な取組みの進捗状況

施策 1 - 1 自然と共生し人がつながる暮らしの実現

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
緩衝帯整備面積	目安値	ha	H30	1	1	1	2
	実績値		1.74	0.4	0.6	1.5	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	順調	
	進捗状況の分析	令和4年度は神戸地区の国道19号沿い支障木危険木伐採を行った。この箇所は以前からサルの出没ルートとなっており緩衝帯としての効果も見込まれる。					
	今後の取組み	緩衝帯は効果があると考えられ、更に強化していくこととしているが、有害個体の数を減らすことにはなっていない。鳥獣被害対策実施隊との連携を密にして現対応を継続し、粘り強く実施していく必要がある。					
協働のまちづくり事業数	目安値	事業	H30	16	17	18	20
	実績値		15	11	12	16	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	概ね順調	
	進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、少しずつ地域での活動が始まったことにより事業数も増加している。					
	今後の取組み	地域の持続的な発展を目指すため、引き続き地域の活動に対する助成等を行い地域での活動を増やしていきたい。					
防災マップ取組地区数	目安値	地区	H30	53	55	59	59
	実績値		45	53	54	54	
	進捗区分			順調	概ね順調	概ね順調	
	進捗状況の分析	町の防災訓練において毎年実施している。R4年度は田立地区（6地区）で実施することにより全地区1巡する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止した。R5年度は田立地区で6月中に実施予定。					
	今後の取組み	毎年実施している町の防災訓練において引き続き実施する。					

1 自然との共生・景観の保存

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
美しいまちづくり事業 (ポイ捨て防止活動)	○	令和4年度における町内一斉清掃はコロナウイルス感染症対策を呼びかけて春・秋の2回実施した。国道待避所におけるポイ捨て巡回監視員による啓発活動等については通年実施し、美しい街づくりに努めている。	B	環境美化活動への意識付け、啓発活動として継続し取組を行っていく。不法投棄防監視員との連携による取組みも実施。
文化財の保存	○	経年劣化により文化財損傷の危険はあるが、国文化財5(7)、県文化財8、町文化財50あり、件数が多いため、必要に応じて順番に修繕等を行ってきた。特に重伝建妻籠宿は、特定されている建物の件数も多く、保存開始から50年以上が経ち保存修繕の必要な個所が増えている。重伝建保存修理実績 R4:1棟 本陣修景実績 R4:1件 小規模修理実績 R4:5棟 歴史の道整備実績 R4:保存活用計画の策定、修繕等3件 他	B	令和4年度と同様に、妻籠宿保存地区内建造物の保存・維持工事や各種文化財の維持修繕措置を行っていく。 重伝建保存修理予定 R5:3棟 小規模修理 R5:棟数未定 歴史の道整備 R5:未定 他
緩衝帯による里山再生	○	令和4年度は神戸地区の国道19号沿い支障木危険木伐採を行った。この箇所は以前からサルの出没ルートとなっており緩衝帯としての効果も見込まれる。	B	緩衝帯は効果があると考えられ、更に強化していくこととしているが、有害個体の数を減らすことにはなっていない。鳥獣被害対策実施隊との連携を密にして現対応を継続し、粘り強く実施していく必要がある。

2 地域の主体性・つながりの強化

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
若者まちづくり会議	○	前年度はオンラインによる会議が主となっていたが、今年度は委員が集まることができ、今後の進めた方等を意見交換することができた。	B	若者が一つのテーマについて意見交換できる場であるため、継続して進めていく。

地域支え合いの会への支援	○	新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動を自粛した期間があったため、利用回数が減少している。需要に関しては供給されている。	B	今後も高齢者が住み慣れた自宅で安心して暮らせるよう、協力会員の拡充や活動の周知を進めながら継続していく。
お気軽ミニ集会	○	令和4度におけるお気軽ミニ集会の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開催依頼は無かった。	B	開催要望も年々減少傾向ではあるが、少人数で町長と直接話ができ、地域とのつながりを図る場として貴重な機会であるため、令和5年度も新型コロナウイルス感染症対策に努めつつ住民の方からの希望により開催を継続していく。
地域振興協議会への支援	○	会長会議を2度にわたって開催し、各協議会から挙げられた要望に対して回答を行った。 令和2年度には、まちづくり会議の統合や事務局体制の見直しを行い、より効率的で現状に即した体制となっている。	B	役場職員による地域振興協議会事務局を配置し、地元と共同で地域課題の解決等にあたる現在の形を維持・継続していく。
公民館活動等支援	○	例年どおり活動支援として補助金を交付した。感染症拡大防止により中止せざるを得なかった事業分の経費については、今後の活動も見据え、必要な物品等の購入に充てるよう各分館に依頼。	A	近隣町村の公民館活動等も参考に各分館に情報提供を行う等協力して、本館とともにコロナ禍前の活動状況に戻していくことに努める。また、多くの方に参加いただけるような事業方法等について検討を深める。
若者まちづくり交流イベントの開催	○	コロナ禍でイベント開催について意見を交換し、国道19号ゴミ拾いを行った。SNSによる情報発信を行った。	B	SNSでの情報発信など、若者目線でニッチな南木曾町の情報発信を引き続き行っていく。R5年度からコロナが明けるため委員会のみイベントではなく、住民の方を含めた活動を行う予定。
コミュニティスペースの活用	○	読書地区の空き店舗をコミュニティスペースとして活用した。コロナ禍によりイベント開催については感染対策を十分行い実施した。	B	住民の方や地域おこし協力隊が企画したイベントを定期的に行い、地域住民の交流の場として運営していく。
妻籠町並み交流センター建設	○	令和4年4月「妻籠町並み交流センター」運用開始 外構工事、妻籠分館取壊工事に着手し、完成した。	A	駐車場建設工事について、年度内に着工、完了するように努める。

3 地域防災機能の向上

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
防災計画の推進	○	災害警戒体制など随時見直しを行い取り組んだ。	B	刻々と変化する状況（気象状況、社会要請など）に対し、的確に対応するため計画の見直しを行う。
防災施設の整備	○	実施計画に計上し防火水槽、消火栓等施設を順次整備中。老朽化による修繕対象施設があり、計画的なメンテナンスが必要となっている。	B	今後も整備計画等に基づき、実施する。
自主防災組織への援助（防災マップ等）	○	拡大版ハザードマップを使った地域の点検等に取り組んだ。	B	防災訓練など啓発活動を通じて、自主防災組織の育成、支援を継続的に実施する。
消防団への活動支援	○	消防団運営費等により活動支援を行った。	B	今後も継続的に活動支援を行う。
治山・治水・砂防事業の推進	○	<p>■ 治山事業 治山については、地域要望に基づき現地確認を行い、長野県へ治山事業要望を実施している。町外者が山林所有者であることが多くなっており現地の状況が伝わりにくい中であるが、実施に向けた保安林指定を先行して実施できるよう進めている。</p> <p>■ 治水・砂防事業 国（多治見砂防国道事務所）長野県（砂防課）との連携による砂防事業の推進・整備として、桂川砂防工事など、災害から町を守るため事業が計画的に進められている。</p> <p>多治見砂防国道事務所関係事業 ・和合蛇抜沢沈砂池 本体工事 ・地蔵沢砂防堰堤 本体工事に伴う用地・補償 ・桂川砂防堰堤事業 取付道路工事 ・梨子沢砂防流路工 に伴う用地・補償</p>	A	<p>■ 農林係 引き続き治山については、地域要望に基づき現地確認を行い、長野県へ治山事業要望を実施していく。</p> <p>■ 建設係 引き続き、国、長野県と連携し、砂防事業の推進・整備による、安全で住みよいまちづくりを目指していく。また、住民に向けた啓発活動にも取り組んでいく。今年度は和合蛇抜沢沈砂池工の本体工事と、桂川砂防堰堤の本体工事が引き続き実施される予定となっている。</p> <p>南木曾町では、与の洞沢河畔林整備事業を実施する計画となっている。</p> <p>多治見砂防国道事務所関係事業 ・和合蛇抜沢沈砂池本体工事 ・地蔵沢砂防堰堤 本体工事に伴う用地・補償 ・桂川砂防堰堤事業 本体工事 ・梨子沢砂防流路工 本体工事 長野県関係事業 ・木曾川緊急浚渫事業 R2～R6</p>

		長野県関係 ・木曾川緊急浚渫事業 R2～R6 ・与川河川整備事業 R2～R6 南木曾町関係 ・伊勢小屋沢 河畔林整備事業		・与川河川整備事業 R2～R6 南木曾町関係事業 ・与の洞沢 河畔林整備事業
CATV光化事業 (FTTH化)	◎	令和2年度にCATVのFTTH化が整備され、全世帯に光回線が整備された。令和4年度は広域と連携を取り、光回線を活用した施策の検討を行うことができた。	A	引き続き、広域と連携を図りながら施策の検討を行っていく。
簡易給水施設整備	○	人口減少、高齢化により維持管理が困難となっている簡易水道以外の小規模水道施設について、修繕費、管理面での支援を行うことにより、安全で清潔な飲料水の供給に努めている。また、近隣する水道施設の統合など、将来的な維持管理体制の提案も行っている。令和4年度は与川地区、向田水道と柿平水道の統合するための改修を行い維持管理の軽減を図った。	A	給水施設の維持管理などの問題から、小規模施設の統合を地域と検討し、継続した飲料水の供給について支援を行う。令和5年度においては上在郷地区への給水エリアを拡張できるよう設計をおこなう。
国土強靱化計画の策定	◎	国の方針転換により令和3年度の補助金・交付金の配分から、国土強靱化地域計画への記載が「要件化」されたことに伴い令和2年度に策定した。	A	次回の見直しは、令和7年度となるが、別表の事業一覧は、実施計画の見直しとともに更新を行う。

4 未来技術の活用

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
未来技術の活用に向けた調査研究	○	事業として実績なし。 オンライン会議や面談が行われるようになってきた。	E	木曾広域連合 自治体 DX・ICT利活用計画により、危機管理、総務、商工、農林、福祉、教育の分野別に担当部会を作成し、今後のDX化に向けて、各町村の状況把握、アンケート調査を行う。

施策1-2 健康で安全な食を支える地産地消の推進

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
遊休農地への放牧面積	目安値	ha	H30	6	6	6.5	6.5
	実績値		6	5	5.5	5.5	
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	概ね順調	
	進捗状況の分析	畜舎から遠方での放牧は、移動や管理の時間や労力の負担が大きいため以前のように行われていない。近隣の放牧が継続されているため、今年度も数値は横ばいとなっている。羊の放牧も同様。					
	今後の取組み	家畜農家から相談があれば、農業委員会と協力して遊休農地の斡旋をしていく。					
新しい加工食品の販売額	目安値	千円	H30	200	400	600	1,000
	実績値		100	243	640	530	
	進捗区分			順調	順調	概ね順調	
	進捗状況の分析	長野県、町農技連、えごま同好会の協同により、えごま栽培の実証、講習会を年4回開催した。これにより栽培面積は増となった。ただし、自家消費する者もあり販売額の増まではならなかった。					
	今後の取組み	引続き関係者と協同し、えごま栽培の実証を行い、効率の良い栽培、収穫量の増を検証する。新たな耕作者へ販売ルートや方法などを周知していく。					

1 農地の有効活用の促進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
農家への経済的支援	○	中山間直接支払及び多面的機能支払により、農地や施設の維持補修等の費用を支援。中山間直払 35,271 千円、多面的 5,300 千円、経営所得安定対策交付金 7,079 千円を実施。町制度資金や利子補給金を予算措置。	A	引続き事務的支援を継続し農家の負担を軽減して各制度を継続していく。特に多面的機能支払交付金は5ヶ年計画の最終年度であり、次期計画への移行は農家の事務負担が大きいため丁寧な支援をしていく。
有害鳥獣対策の推進	○	鳥獣被害対策実施隊・緩衝帯整備・追払い・生体調査等の長野県で推進している対策を取り入れて行っている。	B	鳥獣被害対策実施隊との連携を密にして現対応を継続し、粘り強く実施していく必要がある。
畜産による遊休農地活用の推進	○	畜産農家は効率的に放牧を行いたいため、畜舎から遠方での放牧を止め、近隣の放牧を行っている。牛の放牧は減少傾向にあるが、羊の放牧が増加傾向にある。	B	畜産農家の要望により、農業委員会と協力して遊休農地の斡旋を行う。

協同耕作の推進	○	引き続き、えごま栽培の実証ほ場で、えごま同好会による協同耕作を実施。栽培講習会を4回開催し、新たな耕作者の増を図った。県及び農技連で技術的支援をしている。	A	同ほ場での実証（施肥の有無、連作障害等）は今年（3年目）で最終とする予定。実証結果を基に更なる検証を進めるか等を関係者と検討、若しくは新たな協同耕作を検討し遊休農地活用を図る。
中山間地直接支払制度	○	26の集落協定、約165ha、交付金額35,271千円で農地維持活動を実施。各集落の活動により協定農地の管理が継続されている。	A	事務的支援により各集落の負担を軽減し、活動の継続を支援する。

2 農業の高度化・発展

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
農業の活性化事業	○	地産地消による軽トラ市、学校給食への食材提供（運搬費補助）に加え野菜自動販売機を3機設置し販売箇所を増やすことで生産意欲向上を図った。ただし、設置がシーズンオフだったため次年度に更なる活性化を図りたい。	B	野菜自動販売機の稼働が通年となる。新規購買者の増のためのPRや運営の不具合等あれば改善し野菜自動販売機での収益増を図ることで活性化を推進したい。
園芸特産振興助成事業	○	学校給食への食材提供の運搬補助94千円。昨年に比べ天候不順により野菜の生育が悪く食材提供量が減った。新しい販売先の確保として野菜自動販売機を3機設置した。（駅前、天白公園、分庁舎）	B	引き続き学校給食への運搬補助を継続する。天候に左右されないパイプハウス設置を促すため補助金限度額を30万から50万円へ拡充する。
加工食品の開発	○	えごま同好会によるえごま油の他、えごま焼肉だれが新たに開発された。道の駅等での販売は良好な状況。農産物は町内、加工は町外の専門業者に委託し製品化している。	B	町内に加工所の建設を希望する声もあるが、運営主体、自主財源、規模等課題は多く、検討はするが事業化はまだ先と考える。当面は現に活動してる団体を支援し加工食品を推進していく。
全国的に販売できるしくみづくり	○	新型コロナウイルス感染症の影響により各長野県事務所等への働きかけや商品の陳列を実施したいが、進んでいないのが現状。新たな仕組みづくりの確立が課題。小規模でも販路確保としては重要	C	各長野県事務所や県内外のイベントなどへの事業者の積極的参加による直接的なPRの機会を更に推進する。また、ふるさと納税返礼品として活用も継続していく。

農業と観光業の連携	○	新型コロナウイルス感染症の影響により連携を予定していたイベントが中止となり実施できなかった。	C	観光イベントとのタイアップ以外にふるさと納税返礼品として活用も継続していく。
学校給食への地元食材利用	○	<p>■総務学校 農林係、地産地消推進会議の協力を得ながら、地元の四季の野菜を食べてもらうことができた。主食である米も地元南部産コシヒカリを使用し、町費で100%補助を行った。</p> <p>■農林 学校給食への食材提供運搬費の補助 94 千円を実施。</p>	A	<p>■総務学校 地元の旬の野菜、食材等を給食に取り入れることで食の安全やおいしい給食で残菜減、食育に役立てたい。米の購入費を町費全額負担にすることで、保護者負担の軽減を図る。</p> <p>■農林 引続き、運搬補助を実施する。</p>
南木曾薬草検討委員会への支援	○	国等からの研修会、技術支援等の情報があれば情報提供を実施してきた。薬草の会が自立した組織となり、町の支援がなくとも活動が進められている。	E	薬草の生産拡大など、農地斡旋希望等あれば農業委員会と協力して支援していく。

施策1-3 買い物・交通・医療弱者がいないまちづくり

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
年間バス利用者数	目安値	人	H30	62,000	62,000	62,000	62,000
	実績値		61,966	22,093	21,419	33,577	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	進捗状況の分析	新型コロナの影響により観光客数の減少が続いたが、規制緩和に伴い利用者が増加した。与川地区、北部地区（一部三留野地区）でデマンドタクシーの運行や田立線（通院バス）の延伸を実施した。地域住民の足としては感染対策など行い役割を果たせていた。数値は令和5年3月時点の目安。					
	今後の取組み	交通弱者と観光客がより利用しやすい運行方法を検討していく。乗合タクシー（蘭線、広瀬線、田立線）のデマンドタクシーの実施を行うなどより地域に寄り添った公共交通の運行を行う。					
経営指導件数	目安値	件	H30	320	320	330	330
	実績値		320	913	913	1,352	
	進捗区分			順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	コロナ過において事業者の経営指導や経済対策に商工会が精力的に活動し、事業者の支援に繋がった。					
	今後の取組み	地域の事業者にとって商工会の存在・指導は不可欠であり商工業の維持と発展に向けた助言指導、融資斡旋の相談など多岐にわたる事業であるため、継続的に支援を実施する。					
木曽病院線への利用者	目安値	人	H30	50	50	50	50
	実績値		13	232	321	349	
	進捗区分			順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	交通弱者の利用が定着しており、実績が増加した。10月以降は有償運行を実施した。					
	今後の取組み	引き続き有償運行を実施し、乗合での利用率を増加させる。					

国保健診受診率	目安値	%	H30	70	70	70	70
	実績値		72.4	70	70	67	
	進捗区分			順調	順調	概ね 順調	
	進捗状況の分析	意向調査を基に名簿を作成し、個別に対応できるように整理をし、「受けない」「未回答」であった場合、受診勧奨を行うことで健診受診率の向上につながった。					
	今後の取組み	国保ヘルスアップ事業を活用し、積極的に受診勧奨を行うことで健診受診率の向上を図る。					

1 町内商店の維持・革新

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
商工会への支援 (経営改善・事業承継支援)	○	コロナ禍において事業者の経営指導や経済対策に商工会が精力的に活動し、事業者の支援に繋がった。	A	地域の事業者にとって商工会の存在・指導は不可欠であり商工業の維持と発展に向けた助言指導、融資斡旋の相談など多岐にわたる事業であるため、継続的に支援を実施する。
中小企業制度資金の活用	○	新型コロナウイルス感染症がセーフティネット4号に指定され、影響を受けた事業者による制度資金の活用が大幅に増加した。	A	セーフティネットの延長があったため、引き続き制度資金の活用を商工会と連携して周知する。
地域消費拡大事業 (地域商品券)	○	新型コロナウイルス感染症の影響及び燃料の高騰を受け、地域経済への対策として地域限定商品券を町民へ2回無料配布を行い、燃料高騰対策としては、燃料割引券を町民へ配布した。観光事業者については、プレミアムクーポン券事業を実施した。	A	地域限定商品券の配布を今年度も計画している。
経営指導	○	新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の悪化のため、指導件数が大幅に増加した。	A	商工会と連携して事業者支援に取り組む。

<p>買い物弱者対策の検討</p>	<p>○ 宅配・移動販売等の一覧や困りごとの相談先を記載した「生活安心ブック」を民生委員や地区サロンを通じ高齢者世帯に配布した。ご自身で買い物に行くことが難しい場合、利用登録によりなぎそ・おたすけ隊による買い物代行支援を行っている。</p> <p>○ おたすけ隊の周知は社協報の誌面や地域包括支援センター作成のリーフレット等で世帯配布したほか、個別の相談の際チラシで案内している。</p> <p>おたすけ隊活動実績（買い物） R2 25件 R3 21件 R4 26件</p>	<p>B</p>	<p>南木曾町生活支援体制整備協議体会議にて現状の確認や課題検討を引き続き行っていく。</p> <p>生活支援コーディネーターを主として地域の困り事やニーズを把握しつつ、おたすけ隊、ボランティア送迎事業の担い手の育成など体制の強化を図りながら継続する。</p>
-------------------	---	----------	--

2 公共交通の充実

<p>具体的な取組名</p>	<p>実施状況</p>	<p>実施状況の説明</p>	<p>事業効果</p>	<p>今後の取組み</p>
<p>地域バス・乗合タクシーの運行</p>	<p>○</p>	<p>町が運行主体となることで地域からの声に対応した時刻やダイヤ改正も行い実施した。与川地区、北部地区（一部三留野地区）でデマンドタクシーの運行を実施した。中津川市坂下地区の医療機関への通院が可能となるように、「弥栄橋」バス停を新設した。コロナ禍により国内外の観光客が大幅に減少したため観光路線でもある馬籠線の運行本数減を余儀なく行った。</p>	<p>A</p>	<p>より効率的で住民ニーズに応えられるよう対応すべく、地域公共交通計画を策定した。蘭線、広瀬線、田立線の乗合タクシーをデマンドバス化するなど運行方法を再整備する。5年間の計画の中で住民の声を聞きながら、整備を進める。</p>
<p>木曾病院線の利用促進</p>	<p>○</p>	<p>南木曾町の単独運航を行い、利用者が増加傾向にある。10月以降は有償運行とし、大桑村内の医療機関への通院が可能となるように「大桑駅」バス停を新設した。</p>	<p>A</p>	<p>今後も引き続き実施する。</p>

<p>道路交通基盤の整備</p>	<p>○</p>	<p>町の実施計画に基づく事業の実施により、住民の利便性向上を図ることができた。 令和3年度繰り越し事業 ・大原線改良工事 L=70m ・長者畑線防災工事 L=20m ・坂の下線改良工事 L=52m ・交通安全対策工事(グリーンパル舗装) 4箇所 令和4年度事業 ・富貴畑線舗装工事 L=392m ・橋梁修繕事業 宮の沢橋</p>	<p>A</p>	<p>実施計画に基づく事業、及び、重要インフラ・緊急性が高いものの維持補修などの整備を進めるなど、引き続き住民の利便性の向上を行う。 1. 南木曾町国土強靱化計画が策定され、今後5年間は「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化計画」の交付金を活用した道路改良・防災対策を実施していく。 2. 街並み環境整備事業を活用し、妻籠宿内の舗装修繕を計画していく。 主な事業 ・大原線道路改良工事 ・与川線道路改良工事 ・蘭線道路改良工事 ・橋梁修繕事業 前沢橋 ・蘭広瀬線舗装補修工事 ・妻籠町中線舗装工事 等々</p>
<p>南木曾駅窓口業務の運営</p>	<p>○</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、切符販売手数料収入が昨年度の約3割にまで落ち込んでいるが、回復傾向にある。(例年は運営費400万円に対し収入が200万円を見込んでいる。→R3は約80万円、R4は約134万円)</p>	<p>C</p>	<p>切符販売手数料は回復傾向にあり、新型コロナウイルス感染症拡大前の状況に戻るよう期待している。JR東海による無人化以降、住民の利便性向上として町が切符販売を実施してきたが、観光客が多く利用している現状もあるため、今後の運営について検討したい。</p>

3 医療と健康づくりの推進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
<p>木曾広域連合との連携</p>	<p>○</p>	<p>各町村で負担金を拠出。休日夜間の一時救急医療を木曾病院の一面を使用し信大医師の派遣と、看護師を配置して実施している。</p>	<p>A</p>	<p>一時救急医療を担っていることから、継続して実施する。</p>
<p>地域医療支援事業</p>	<p>○</p>	<p>町内の医療機関を支援するため、施設の整備及び医療機器の購入に要する費用に対する補助金交付支援を行った。 令和4年度は1医療機関へ合計1,000千円の支援を行っている。</p>	<p>A</p>	<p>山間部の過疎地である当町の医療機関を支援するため、継続して実施していく。</p>

総合型スポーツクラブ 支援	○	支援として補助金の交付、少年スポーツ事業の委託を継続して行っている。また、令和2年度から町職員1名の出向により、支援が厚くなったことで事業活動等の充実が図られている。	B	2023年2月、なぎそチャレンジクラブは設立から10年が経った。今後を見据え、財政の長期安定、活動内容等の充実を狙った事業計画等の作成・検討及び事業実施について、積極的に協力する。
疾病予防の促進 (健診・検診)	○	住民の健康維持と疾病の重症化予防するため、特定健診等の健康診査、がん検診等受診率向上に取り組んでいる。特定健診は、在宅看護師や町職員による未受診者対策を行い、受診勧奨やデータ提供の働きかけにより受診率向上に繋がった。	B	生活習慣病予防の観点から早い時期に生活習慣の問題点に気づき改善していくため、39歳以下の方を対象としたさわやか健診の受診率向上、がんの受診率向上に努め早期発見、早期治療に繋げていくため継続して実施する。
介護予防の促進 (地域支援事業)	○	コロナウイルス感染症のため、活動の自粛があった。自粛期間中パワーアップ教室では、自宅のできる体操のチラシを配布。スタッフが参加者宅に電話し、健康状態の把握や継続して身体を動かすことの重要性を伝えた。地区サロンへ健康運動指導士・管理栄養士・保健師を派遣するサロン出張講座もコロナウイルス感染症のため、実績が伸びなかった。	B	コロナウイルス感染症予防での外出自粛による、フレイル状態になることを予防するために、運動習慣の定着、規則正しい生活リズム、3食摂取することの大切さを伝えていく事業を今後も継続していく。

基本戦略2

子育て世代が戻ってこられる雇用の創出

基本目標

町の独自の地域資源を活かした魅力のある新しい雇いを創出し、安心して移住できる労働環境を整備する。

数値目標の進捗状況

指標名	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
観光宿泊者数	目安値	人	H30	130,000	130,000	130,000	130,000
	実績値		139,300	119,400	96,200	143,800	
	進捗区分			概ね 順調	努力を 要する	順調	
新規林業従事者数	目安値	人	H30	1	1	1	5 (R2~R6)
	実績値		1	2	0	4	
	進捗区分			順調	努力を 要する	順調	
誘致した企業数	目安値	企業	H30	—	—	—	1
	実績値		—	0	0	0	
	進捗区分			実績値 なし	実績値 なし	実績値 なし	

総合分析

○都市部の大企業の雇用形態と差別化し、町特有の雇いを創出するため、雇用を生み出す潜在能力がある「観光産業」と「林業」の2つに力をいれた取組みを実施した。併せて優秀な人材の確保や起業促進のための取組みを実施した。

○数値目標や基本目標に係る重要業績評価指標（KPI）は11項目中5項目が「順調」、3項目が「努力を要する」、3項目が「実績値なし」となった。

○ふるさと納税額については、新規ECサイトと契約したことにより、過去最高額の寄付となった。観光来訪者数についても、新型コロナウイルスの影響による移動規制が解除されたこともあり、目標達成できた。新規林業従事者数についても、目標を達成することが出来た。R5年度から担い手支援に関する補助を創設することもあり、更なる従事者獲得を目指す。

重要業績評価指標（KPI）具体的な取組みの進捗状況

施策2-1 観光立町の推進

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
観光客数	目安値	千人	H30	530	535	540	550
	実績値		526	301	253	371	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度と比較すると増加しているが目標値には達していない。					
	今後の取組み	新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなり観光客が戻ってきている。また、インバウンドも多くなってきているため、国事業を活用している同意事業者等に協力していく。					
外国人観光客数(一石枋)	目安値	人	H30	36,000	37,000	38,000	40,000
	実績値		31,426	2,900	867	7,639	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	進捗状況の分析	新型コロナウイルス感染症の影響により激減している状況が続いていたが、国の規制が解除となり増加に転じている。					
	今後の取組み	新型コロナウイルス感染症発生前と比較しても少ない状況が続いているが、令和4年度に観光協会が導入した音声ガイドアプリを検証し、インバウンド対策に努めていく。					
ふるさと納税額	目安値	千円	H30	10,000	10,000	24,500	24,500
	実績値		13,027	29,442	25,437	32,615	
	進捗区分			順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	目標を達成することができた。					
	今後の取組み	南木曽商工会との連携により、返礼品の増加や新規事業者を開拓し、今までにないニーズを獲得し、納税額の増加を進めていく。					

観光協会会員数	目安値	会員	H30	30	50	60	80
	実績値		18	94	108	110	
	進捗区分			順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	協会で町内幅広く入会募集をしたところ、観光関連以外の方々も協会活動に賛同し入会してくれた。					
	今後の取組み	目標値を超えているが協会では更なる会員増加に努める方針である。					

1 観光資源の整備・活用の推進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
(一社)南木曾町観光協会への支援 (運営・商品開発支援)	○	アフターコロナ対策に向けて、音英ガイドアプリの導入など誘客に向けての準備を進めた。愛知県のイベントに参加し、ノベルティー事業で制作した、田立のお茶や観光パンフを配布し観光アピールを行った。	A	観光協会では、観光宣伝等委託している。また、観光庁の補助事業にも積極的に取り組むなどしており、引き続き支援を実施する。
集客イベントへの支援	○	イベントは実行委員会形式で行っており補助金で支援している。ミツバツツジ祭りはコロナ禍のため小規模であったが開催した。冬季は氷雪の灯祭りを妻籠宿で実施した。雨天であったがたくさんの方に見ていただいた。地域おこし協力隊もイベントの運営側として参加し、対応を行った。	B	ミツバツツジ祭りはコロナ禍のため土日のみの開催となった。観光部局と連携しながら、数日間の支援を行った。
観光地整備事業	○	町内各地の観光施設の修繕、整備を計画的に実施している。	A	施設整備により安心して訪れることができる環境づくりは、受け入れる観光地の責務であるため今後も継続して実施する。

地域への観光地整備事業補助金	○	町内各地域の観光事業者が主体となり施設整備を行っていただく事業で、令和4年度は柿其溪谷観光協会に補助金を活用していただき、きこりの家の屋根塗装を実施した。	B	地域が主体となり整備する観光地は、地元の協力のもと維持管理していることも多いので、継続して支援を実施する。今年度も引き続き、きこりの家の屋根塗装を計画している。
伝統芸能保存	○	町の伝統芸能(無形民俗文化財)に対し、継続的な活動支援策として備品購入費等の助成をした。 助成実績 R4:3団体	B	これまでと同様に、保存団体に対し活動費の一部を補助する。 助成予定 R5:3団体
広域交流道路の整備	○	長野県と南木曾町が主体となる地域再生計画(道整備交付金)「歴史とひのきの薫る里づくり計画(R3~R7)」を策定。認定された計画により、事業を進めることができた。 国・県へ広域道路の整備要望を行い、下記について実施していただいた。また、今年度から国道19号について、中津川市と連携し、国県へ要望活動を実施した。 飯田国道事務所 ・19号神戸視距改良事業 ・19号防災工事(賤母洞門上) 木曾建設事務所 ・国道256号漆畑拡幅3工区設計、工事発注 ・(主)中津川南木曾線下り谷工区(滝上橋付近) ・(主)中津川田立線新設工事(新大滝川橋、道路築造) ・木曾川右岸道路(読書ダムから戸場)設計	A	長野県と南木曾町が主体の地域再生計画(道整備交付金)「歴史とひのきの薫る里づくり計画」により、地域住民による町内主要地点間のアクセス時間の短縮、交通安全の向上、森林施業の効率化を通じて、観光客の増、定住を促し、林業振興を目指す。 また、南木曾町右岸道路づくり委員会を開催し、木曾川右岸道路事業(川向~田立)の事業化に向けた議論を進めていく。 長野県代行事業 ・町道川向柳野線(高瀬橋架替) R3~R7 南木曾町事業 ・町道大原線改良 R3~R4 ・町道与川線改良 R4~R6 ・林道秋葉山線舗装 R4~R6 ・林道越野線待避所 R7 飯田国道事務所 ・19号神戸視距改良事業 木曾建設事務所 ・国道256号漆畑拡幅3工区工事 ・(主)中津川南木曾線下り谷工区(滝上橋付近) ・(主)中津川田立線新設工事(新大滝川橋上部工) ・木曾川右岸道路(読書ダムから戸場)設計、用地・補償

農泊推進協議会への支援	○	協議会の構成団体の事業において、国有林内での川遊び体験が一つの事業となっており、入林届といった手続きの支援を行い利活用が図られている。	B	許認可関係において行政という立場で必要な支援を行う。
地域おこし協力隊支援	○	地域おこし協力隊は継続して受け入れており、その都度、事業の目標達成に向けて必要な支援を行った。新たに委託型地域おこし協力隊を導入し、任期終了後、起業に向けた制度を整備した。	B	任期終了後に南木曾町に定住してもらうため、引き続き支援を行う。

2 インバウンドの推進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
(一社)南木曾町観光協会への支援(運営・商品開発支援)(再掲)	○	アフターコロナ対策に向けて、音英ガイドアプリの導入など誘客に向けての準備を進めた。愛知県のイベントに参加し、ノベルティー事業で制作した、田立のお茶や観光パンフを配布し観光アピールを行った。	A	観光協会では、観光宣伝等を委託している。また、観光庁の補助事業にも積極的に取り組むなどしており、引き続き支援を実施する。
多言語化等事業	○	南木曾町観光協会のホームページを更新したため、英語でもホームページを閲覧できるよう更新した。令和5年度から始める音声ガイドアプリの導入に向けて準備を行った。	B	引き続き観光協会等と協議し、多言語に対応できるよう事業を検討していく。
駅観光案内所の運営	○	新型コロナウイルス感染症の影響により低迷が続いていたが、利用者が増加に転じ、案内対応した人数は前年の約2.2倍、訪れた外国人は約13.9倍と増加した。	B	継続して業務を実施するが、案内人数も増加してきているため、引き続き運営をしていく。
外国人向けツアーガイドの育成	○	民間企業が観光庁事業で事業を行っている事業に同意し、ツアーガイドの育成に取り組んでいた。	C	南木曾町では妻籠宿での対応がメインとなるが歴史や保存事業の内容を踏まえたガイドが必要である。R4年度町も同意した、観光庁事業で、民間企業が行う事業も継続されて行われる計画であるため、期待したい。

空家等を活用した観光交流施設・宿泊施設等の整備	○	令和元年度に整備した観光交流施設を無料開放し休憩所として活用、滞在時間の増加に貢献できた。	B	4月より観光客の増加がみられるが、休憩所に関する特段の苦情も無いことから有効利用されている。引き続き無料開放休憩施設として活用していく。
キャッシュレス決済の導入支援	○	令和3年度は、導入実績がなかったが、今まで商工会で啓発を実施した結果、町内のキャッシュレス決済の導入状況は、令和元年度時点で42社となっている。利用できる環境づくりは進んでいる。	B	非接触式のキャッシュレス化の普及が進むと思われるので、利用促進のため商工会と連携して啓発に取り組む。

3 地域ブランド力の向上

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
日本遺産・日本で最も美しい村連合に関するPR	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、PRイベントが実施できなかった。	B	PR活動には積極的に参加する計画である。
地域ブランド促進事業	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントが中止となったが、長久手市への木工玩具の提供は引き続き実施できた。	B	実施可能なPR活動を実施していく。長久手市への木工玩具の提供を引き続き実施できるよう、事業者とともに取り組む。
宣伝誘客活動	○	観光協において可能な範囲で観光案内、メディア、旅行業者へのPR、各種取材の対応等を実施した。	B	観光客の増加を図るために情報の発信は不可欠である。効率を高め有効な誘客活動にするために、観光協会でホームページ・パンフレットの更新を行っていく。
ふるさと納税の拡充と企業版ふるさと納税の導入	○	事業者と直接話し合いを実施し、新規返礼品の開発に協力、委託先を2社に増やしたことにより、納税額が過去最高となった。	A	新規事業者の開拓、今までにない返礼品の登録を行い、ふるさと納税額増加に努める。
スローフードの活用推進	○	新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小して実施された。	B	引き続き活用推進を図る。
広域連携の推進	○	会議に参加し、広域連携で行われる事業について協力を行った。	B	尾張藩、木曾観光連盟、伊那路木曾路広域観光連携会議、長久手市、上下流交流などへの参加・交流を行い、広域連携を図る。

4 妻籠宿の保存と活用

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
妻籠宿保存事業	○	建物の経年劣化により、修理が必要な物件が増加している。妻籠宿の世界的価値を維持するために継続的な取り組みを行った。 重伝建保存修理実績 R4：1棟 小規模修理実績 R4：5棟	B	令和4年度と同様に、妻籠宿保存地区内建造物の保存・維持工事を行っていく。 重伝建保存修理予定 R5：3棟 小規模修理 R5：棟数未定
歴史の道修理・修景	○	令和2年度から進めてきた史跡中山道保存活用計画が令和4年度に策定された。緊急度の高いものについては修繕・整備を行った。大きな修繕・整備については計画的に実施をしていく。 R4：史跡中山道保存活用計画策定 R4：修繕等3件	B	外国人、特に欧米人から評価が高い歴史の道の景観を維持しながら整備することが重要であり、歩道の木橋などは劣化損傷が早く、緊急度により町内各所で修繕、整備を行っている。今後策定をする予定の史跡中山道整備計画へ、大きな事業については盛り込んでいく。 歴史の道修繕 R5：未定 他
妻籠宿の世界遺産登録に向けた調査・研究	○	指定されるために必要な課題が数多くあるため、認定にはかなり時間を要すると思われるが、研究は継続していく必要がある。現在、世界遺産暫定一覧に妻籠宿・馬籠宿として記載されているが、文化庁が現在の候補案件指定を優先しているため進展していない。	C	現在、世界遺産暫定一覧に妻籠宿・馬籠宿として記載されているが、文化庁が現在の候補案件指定を優先しているため進展していない。 今後も文化庁の動向を注視し、関係各所と連携を取っていく。
中山道などの道路整備	○	令和2年度から進めてきた史跡中山道保存活用計画が令和4年度に策定された。緊急度の高いものについては修繕・整備を行った。 R4：史跡中山道保存活用計画策定 R4：修繕等3件	B	外国人、特に欧米人から評価が高い歴史の道の景観を維持しながら整備することが重要であり、歩道の木橋などは劣化損傷が早く、緊急度により町内各所で修繕、整備を行っていく。今後策定をする予定の史跡中山道整備計画へ、大きな事業については盛り込んでいく。 歴史の道修繕 R5：未定 他

5 リニアを活かしたまちづくり

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
リニア中央新幹線を活かした地域づくり委員会への支援	○	商工会主催により、会議を一回開催した。	E	引き続き支援を実施する。

施策 2 - 2 林業振興の促進

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
町有林・民有林の間伐実施面積	目安値	ha	H30	50	50	50	50
	実績値		28.61	37	42	22	
	進捗区分			努力を要する	概ね順調	努力を要する	
	進捗状況の分析	今年度も町有林内において、高性能林業機械を使用した搬出間伐を実施。民有林内における間伐事業にも高性能林業機械が使用され実施したが目標値には達しなかった。					
	今後の取組み	高性能林業機械を使用した搬出間伐を実施し、今後の民有林内における事業の拡大を目指していくこととなる。					
国有林レクリエーション利用者数	目安値	人	H30	20,000	20,000	20,000	20,000
	実績値		20,800	16,700	21,400	22,700	
	進捗区分			概ね順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	目標値を達成することができた。令和3年度に計測機器を設置し、令和4年度より本格的に運用を開始した。計測機器の導入により、正確な利用者数が把握できるようになった。					
	今後の取組み	登山道の整備など引き続き計画的に実施し、利用者の皆さんが安全安心して楽しめるよう取り組む。					

1 町有林・民有林の利活用の促進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
町有林整備・活用の推進	○	搬出間伐による田立峠町有林の整備を行った。搬出した間伐材は市場へ供出した。	A	今年度も搬出間伐による町有林整備を行う。公共建築物への利用も検討していく。
民有林の新たな経営管理システムの構築 (森林環境譲与税の活用)	○	木曾広域連合を連携し森林経営管理システムの推進を行った。本年度は与川川合団地の森林整備調査と田立傘木団地の意向調査を行った。	A	引き続き防災減災を柱に地区を確認しながら事業を進めていく。
まきストーブ・ペレットストーブへの補助とペレット工場の検討	○	山林資源を活用し林業の振興を図るため、薪及びペレットストーブ設置に対する補助を4件行った。	A	引き続き薪及びペレットストーブ設置に対する補助を行う。
地元産材利用促進モデル事業 (妻籠町並み交流センター建設)	◎	妻籠町並み交流センター建設用資材として使用し、R4年度に完成した。	A	今後も新たな関係機関と調整をとり、公共建築物に町有林産資材活用を検討していく。
林道網の整備	○	民有林整備を推進するためには搬出間伐の推進をする必要がある。特に作業効率を上げるために林道網の整備が求められている。令和3年度に作業道開設・修繕補助制度を創設した。	B	今後も森林作業道開設・修繕補助金を実施していく。
森林組合への支援	○	民有林整備を推進するためには民有林の地権者8割が組合員となっている森林組合の安定した経営と事業量の増加は今後も必須であり、高上補助だけでなく組織・現場の両方への期間を絞り、機械設備等の投資が必要である。	A	民有林整備を推進するためには民有林の地権者8割が組合員となっている森林組合の安定した経営と事業量の増加は今後も必須であり、高上補助だけでなく組織・現場の両方への支援が必要である。

2 国有林の利活用の推進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
レクリエーションの場としての整備活用	○	必要な維持修繕及び田立の滝登山道の整備事業で危険個所の工事を実施した。	B	田立の滝遊歩道整備・巡視活動。南木曾岳登山道ボランティア整備を実施し、安全に楽しむことができる環境づくりに取り組む。
学校教育の場としての活用	○	国有林、分収林の保育事業等を森林管理署、地元の林業関係者の協力を受けながら、山林、森林整備や自然環境の大切さを学んでいる。	A	森林管理署や林業関係者の協力を得ながら、コロナ感染症対策を講じながら取組んでいく。
農泊推進協議会への支援(再掲)	○	協議会の構成団体の事業において、国有林内での川遊び体験が一つの事業となっており、入林届といった手続きの支援を行い利活用が図られている。	B	許認可関係において行政という立場で必要な支援を行う。

3 林業関連地場産業の振興

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
伝統工芸品のPR	○	美しい村連合の関係で名古屋にてPRイベントがあったが、参加できなかった。	B	引き続き日本で最も美しい村連合、日本遺産のネームバリューを活用し、今後も物産展などにて伝統工芸品のPRを図る。
工芸街道祭支援	○	実行委員会主催により、小規模であったが実施した。	B	開催の際には引き続き支援を実施する。
伝統工芸体験プログラム	○	和紙、ろくろ細工、ひの木笠の製作体験を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者の減少が続いている。伊那路・木曾路光連携会議においてファムツアーが実施され、メニューに体験を盛り込んだ。	B	体験メニューの利用者を増やため、観光協会のツアー造成へのメニュー化を図る。
ふるさと納税の拡充と企業版ふるさと納税の導入(再掲)	○	事業者と直接話し合いを実施し、新規返礼品の開発に協力、委託先を2社に増やしたことにより、納税額が過去最高となった。	A	新規寿業者の開拓、今までにない返礼品の登録を行い、ふるさと納税額増加に努める。

<p>工芸品産業振興事業補助金</p>	<p>○</p>	<p>伝統的工芸品産業（南木曽ろくろ組合、蘭桧笠組合、田立和紙組合）で、後継者育成のための講習会の開催や、活用のための研究や取り組みなどに対する補助を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部取り組みが実施できない団体もあった。</p>	<p>B</p>	<p>引き続き支援を実施する。</p>
<p>ウディークリエイト南木曽（WCN）への支援</p>	<p>○</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、町外との交流事業は実施できなかったが、小学生の木工製作活動に協力した。</p>	<p>B</p>	<p>引き続き支援を実施する。</p>
<p>地域おこし協力隊支援（再掲）</p>	<p>○</p>	<p>今年度は伝統工芸、木工芸の担い手として2名を採用した。組合や地域との連携により引き続き支援を行っていく。</p>	<p>A</p>	<p>伝統工芸や木工技術の習得を目指し、各種団体や地域との連携により引き続き支援を行っていく。</p>

施策 2 - 3 地域リーダーの育成

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
地域おこし協力隊定着数	目安値	人	H30	2	2	2	2 (R2~R6)
	実績値		1	2	1	0	
	進捗区分			順調	努力を要する	実績値なし	
	進捗状況の分析	退任する協力隊員がいなかった。					
	今後の取組み	引き続き 2 名の地域おこし協力隊を任用し、定住に向けて活動を進めていく。					
起業支援件数	目安値	件	H30	5	5	5	25 (R2~R6)
	実績値		1	1	0	0	
	進捗区分			努力を要する	実績値なし	実績値なし	
	進捗状況の分析	個別の相談もなく、実績無しとなった。					
	今後の取組み	任期終了する隊員が 2 名いることから、地域おこし協力隊員の将来的な起業に向けての支援は継続的に行っていく。					

1 地域に必要な人材の育成・確保

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
移住定住情報の発信	○	町のホームページより、空き家バンクの更新や町営住宅入居者募集、移住相談会のお知らせなど都度発信した。	B	移住定住に関する冊子を作成し、町の HP などにも掲載し、SNS 等でも周知を行う。
UIJ ターン就業移住支援事業	○	情報発信を継続的に行った結果、愛知県から 1 組 3 名の申請があり、交付することができた。	B	前年度 1 組の交付決定することができた。引き続き情報の周知を行っていく。

人材の育成と関係人口の拡大	○	大学連携事業の一環で名古屋外国語大学の学生が滞在しながらフィールドワークを実施し、観光と移住をテーマに研修し、研修成果として福沢桃介に関する人物相関図や移住起業支援の冊子を作成した。滞在期間は過去に参加した学生も滞在し、関係人口の拡大につながっている。	A	大学連携事業も継続し、外国人観光客が増加している妻籠宿を拠点に5泊6日のフィールドワークを実施予定。過去に参加した学生も参加予定。
地域おこし協力隊支援(再掲)	○	地域の方が集まれるような活性化イベント等予定されていたが、コロナ禍により実行できなかった。	E	コミュニティスペースを活用した活性化イベントの実施を予定している。

2 企業誘致・起業支援

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
移住定住・起業支援	○	デジ田 地方創生テレワーク事業にて空き家を活用したサテライトオフィス・コワーキングスペースの造成に手を挙げたが不採択となった。	E	次回募集に向け計画の磨き上げを内閣府と相談しながら進める。
企業誘致活動	○	デジ田 地方創生テレワーク事業にて空き家を活用したサテライトオフィス・コワーキングスペースの造成に手を挙げたが不採択となった。	E	大規模な企業誘致は地形的に困難な事から、地方創生テレワーク事業の採択を受け、地方に移住希望があるテレワーク勤務者の誘致を図っていきたい。
経営指導(再掲)	○	新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の悪化のため、指導件数が大幅に増加した。	A	商工会と連携して事業者支援に取り組む。
地域おこし協力隊支援(再掲)	○	協力隊を退任された方が、起業に向けての準備できるように金銭面の支援として補助制度の説明を行い、活用のための助言や支援を行った。	B	引き続き補助制度について各隊員へ説明し、町への定住と起業に向けての支援を行っていく。

基本戦略3

子育て世代のUIJターンの拡大

基本目標

移住者だけでなく定住者も快適で安心して暮らせることのできる環境を整備することにより人口の社会減を縮小させる。

数値目標の進捗状況

指標名	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標(R6)
20代～30代の転入者数	目安値	人	H27～ R1	252以上 (R2累計)	284以上 (R3累計)	316以上 (R4累計)	380以上 (R2～R6)
	実績値		235	301 (R2累計)	355 (R3累計)	415 (R4累計)	
	進捗区分			順調	順調	順調	
20代～30代の転出者数	目安値	人	H27～ R1	296以下 (R2累計)	307以下 (R3累計)	318以下 (R4累計)	340以下 (R2～R6)
	実績値		258	342 (R2累計)	395 (R3累計)	475 (R4累計)	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	

総合分析

○人口の社会減を縮小させ、社会増に転換するため、移住定住促進や住宅環境の整備などの施策に取り組んだ。

○基本目標である20代～30代の転入者及び転出者は、転入者については移住定住情報の発信数の増加や空家利活用補助金もあり「順調」、転出者については「努力を要する」となり、昨年度は転出者が大幅に増加した。転出者を減少させる方法を新たに検討する必要がある。

○基本目標に係る重要業績評価指標(KPI)は10項目中8項目が「順調」、2項目が「努力を要する」となった。

○具体的な取り組みについての効果の評価は、ほぼA又はBであった。

○地元企業への新規就労者数が昨年より10人増加(4人→14人)し、引き続き魅力的な広報活動を行うよう努める。

重要業績評価指標（KPI）具体的な取組みの進捗状況

施策3-1 Uターンしたくなるまちづくり

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
小中学生の地場産業体験学習回数	目安値	回	H30	33	33	33	34
	実績値		33	20	21	37	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	順調	
	進捗状況の分析		コロナ禍による影響がある中、総合的な学習の時間を中心に取り組みを行った。				
	今後の取組み		アフターコロナにより積極的に外部に出やすくなるため、地域と継続的に実施する。				
移住定住情報の発信数	目安値	回	H30	6	6	6	6
	実績値		—	14	23	20	
	進捗区分			順調	順調	順調	
	進捗状況の分析		目標を達成することができた。				
	今後の取組み		SNS、町ホームページなど移住したい方が見やすいようなページにできるよう各担当と相談ながら構築していく。				
UIターン就業・移住支援事業利用者数	目安値	人	H30	1	1	1	5
	実績値		—	0	0	1	
	進捗区分			実績値なし	実績値なし	順調	
	進捗状況の分析		目標を達成することができた。				
	今後の取組み		前年度1組交付することができた。引き続き情報の周知を行っていく。				

1 地域キャリア教育の推進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
学生の職業体験支援	○	<p>■元気なまちづくり 広域連携事業で取組大学生の職業体験については、中止となったため事業実施していない。</p> <p>■総務学校 生徒の希望により、中学校及び高校から直接事業所に依頼して実施している。町内事業者の受入れ等の情報は商工会等の協力をいただいている。</p>	A	<p>■元気なまちづくり 大学連携事業が実施されていることから、広域連携事業で取り組んでいるインターンシップ（職業体験）は実施しない。</p> <p>■総務学校 商工会、地元企業など関係者の協力を得て、引き続き実施していく。</p>
学校教育への地元食材利用（再掲）	○	<p>■総務学校 農林係、地産地消推進会議の協力を得ながら、地元の四季の野菜を食べてもらうことができた。主食である米も地元南部産コシヒカリを使用し、町費で100%補助を行った。</p> <p>■農林 学校給食への食材提供運搬費の補助 94 千円を実施。</p>	A	<p>■総務学校 地元の旬の野菜、食材等を給食に取り入れることで食の安全やおいしい給食で残菜減、食育に役立てたい。米の購入費を町費全額負担にすることで、保護者負担の軽減を図る。</p> <p>■農林 引続き、運搬補助を実施する。</p>
ウッドィスタート事業	○	木製の出産祝い品を交付する事業として町・長久手市で実施し定着した。	A	引き続き支援を実施する。
林業体験学習	○	中学一年生 46 名が学校林の整備等授業の一環として実施。継続事業として学校内でも内容の理解がされてきている。	A	小学生に植樹祭等のイベント、中学生には学校林の整備等授業の一環として実施予定。継続事業として学校内でも内容の理解がされてきている。

2 移住定住情報の発信

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
移住定住情報の発信【再掲】	○	空き家バンクの更新や町営住宅入居者募集状況、町で行っている支援等、都度更新を行い、情報発信を行った。	B	移住定住に関する冊子を作成した。 SNS等で周知も行う。相談方法については、電話、メールの他オンラインでの相談窓口を開設し、移住希望者への支援を行う。

ホームページ・移住相談窓口の充実	○	空き家バンクの更新や町営住宅入居者募集状況、町で行っている支援等、都度更新を行い、情報発信を行った。	B	前年度同様移住定住に関する冊子を作成した。 移住の相談について、引き続き電話、メールの他、オンラインでの相談窓口を随時開設し移住希望者の支援を行う。
------------------	---	--	---	---

3 Uターン者向けの経済支援

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
UIJ ターン就業・移住支援事業（再掲）	○	情報発信を継続的に行った結果、愛知県から1組3名の申請があり、交付することができた。	B	前年度1組の交付決定することができた。引き続き情報の周知を行っていく。
奨学金等の検討	○	検討を重ねた結果、国の制度に基づき南木曾町に住民票があり、奨学金返済中の若者に支援を行う。令和5年度から制度実施。 【対象】35歳以下で令和5年4月以降に新たに就業し6ヶ月を経過した者 【補助額】年間返済額の50%（限度額10万円） 【補助期間】5年間	E	年度末支給に向けて、今後募集を開始し人数を把握したうえで予算化を行う。
住宅リフォーム補助金	○	令和4年度は8件1,676千円の補助金を交付した。	B	上乗せ補助と併せて活用について住民へ周知をしていきたい。

施策3-2 強みを活かしたUIJターンの促進

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
移住相談件数	目安値	回	H30	10	10	10	10
	実績値		10	15	10	20	
	進捗区分			順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	目標を達成することができた。					
	今後の取組み	ホームページを見た方がメールにて相談してくることが多かった。移住してきたいと思う方が見やすい、わかりやすいと思うホームページを作れるよう努める。					
空家バンク登録件数	目安値	件	H30	10	10	10	10
	実績値		7	6	6	10	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	順調	
	進捗状況の分析	固定資産通知に合わせて空き家管理に関するチラシを送付した結果、目標を達成することができた。空き家実態意向調査を実施した。					
	今後の取組み	前年度空き家実態意向調査を実施し、空き家バンク登録件数の増加につなげる。空き家バンク運営を担う地域おこし協力隊を採用し、空き家バンク登録件数、成約件数の増加を図る。					
空家利活用補助金活用件数 (新規追加項目)	目安値	件	H30	10	10	10	10
	実績値		3	9	10	11	
	進捗区分			概ね順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	空き家バンクの相談が増えたことに伴って、利活用補助金につながった。					
	今後の取組み	引き続き、空き家バンク登録件数、成約件数の増加を図る。					

1 移住相談会への参加

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
移住相談会への参加	○	広域連合が主体となり移住相談会に参加したことから、今年度は参加しなかった。	B	広域が参加したことで、南木曾町のことを多くの人に知ってもらうことができ実際に南木曾町まで来てくれた人もいたため、令和5年度も広域が主体となり相談会に出席してもらう。

2 移住者受入体制の強化

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
移住体験住宅整備	○	南木曾町町内の空き家調査と所有者への意向調査を行い利用可能な空き家資源の掘り起しを行った。	A	定住用賃貸住宅への整備に向けて所有者との契約や建物改修の設計業務を行う。
移住体験ツアー	○	広域連携事業として行う移住体験ツアーについては、移住希望者の要望に合わせたオーダーメイドツアーとして実施し、1組3名の移住があった。	B	移住ツアー希望者のニーズにマッチングするよう町の支援情報の整備や町移住ホームページの整理を行う。
空家利活用補助金の拡充	○	空き家の相談件数の増加に伴い補助制度利用者が増加した。	A	空き家バンク登録件数が増加するよう取り組む。空き店舗についても、補助対象となるよう拡充を図る。
空家バンク登録の推進	○	空き家実態意向調査を実施した。固定資産通知に空家管理に関するチラシの封入などで問い合わせ件数も増えてきている。	B	町内の空き家実態意向調査の結果をもとに、空き家バンク登録件数の増加を見込む。地域おこし協力隊で空き家バンクの運営を担う人材を採用し、空き家バンクの登録件数や成約件数の増加につなげる。
若者まちづくり会議 (再掲)	○	前年度はオンラインによる会議が主となっていたが、今年度は委員が集まることができ、今後の進めた方等を意見交換することができた。	B	若者が一つのテーマについて意見交換できる場であるため、継続して進めていく。
人材の育成と関係人口の 拡大(再掲)	○	大学連携事業の一環で名古屋外国語大学の学生が滞在しながらフィールドワークを実施し、観光と移住をテーマに研修し、研修成果として福沢桃介に関する人物相関図や移住起業支援の冊子を作成した。滞在期間は過去に参加した学生も滞在し、関係人口の拡大につながっている。	A	大学連携事業も継続し、外国人観光客が増加している妻籠宿を拠点に5泊6日のフィールドワークを実施予定。過去に参加した学生も参加予定。

施策3-3 地元企業への就労の促進

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
地元企業への新規就労者数	目安値	人	H30	20	20	20	90 (R2~R6)
	実績値		18	7	4	14	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	
	進捗状況の分析	目標値に達していない。					
	今後の取組み	地元企業への就労していただくよう、求人情報などハローワークと連携し、広報活動に取り組む。					

1 地元への就労支援

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
UIJ ターン就業・移住支援事業 (再掲)	○	情報発信を継続的に行った結果、愛知県から1組3名の申請があり、交付することができた。	B	前年度1組の交付決定することができた。引き続き情報の周知を行っていく。
学生の職業体験支援 (再掲)	○	<ul style="list-style-type: none"> ■元気なまちづくり 広域連携事業で取組大学生の職業体験については、中止となったため事業実施していない。 ■総務学校 生徒の希望により、中学校及び高校から直接事業所に依頼して実施している。町内事業者の受入れ等の情報は商工会等の協力をいただいている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■元気なまちづくり 大学連携事業が実施されていることから、広域連携事業で取り組んでいるインターンシップ(職業体験)は実施しない。 ■総務学校 商工会、地元企業など関係者の協力を得て、引き続き実施していく
地元への就労支援	○	ハローワーク求人情報の掲示を行うなど、周知を実施した。また、広域メール情報も活用し、南木曾町で働きたい希望者にメール配信も実施した。	B	引き続き同様に実施する。
新規就農就林者への支援	○	新規に就農を希望する者への相談受付体制として、町、県、JA等で協力する体制としている。今年度の新規就農希望0件	B	新たな新規就農希望者への相談対応。就農1~2年目の者に対するアフターケア、営農計画の見直し支援、技術的支援を関係者で行う。

施策3-4 ベッドタウンとして選ばれるまちづくり

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
ユーアイ住宅による移住世帯数	目安値	世帯	H30	4	—	—	4 (R2~R6)
	実績値		4	2	7	5	
	進捗区分			努力を要する	順調	順調	
	進捗状況の分析	5世帯の入居実績となった。					
	今後の取組み	ユーアイターン者の入居を進めていく。					

1 住宅地としての競争力強化

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
ユーアイ住宅の建設	○	令和4年度は事業を実施しなかった。	E	今後のユーアイ住宅建設について、ニーズ等の調査をし研究していく。
空き家利活用補助金の拡充 (再掲)	○	空き家の相談件数の増加に伴い補助制度利用者が増加した。	A	空き家バンク登録件数が増加するよう取り組む。 空き店舗についても、補助対象となるよう拡充を図った。
住宅リフォーム補助金 (再掲)	○	令和4年度は8件 1,676千円の補助金を交付した。	B	上乘せ補助と併せて活用について住民へ周知をしていきたい。
宅地造成	○	未売地1区画について、販売することが出来なかった。	D	未売地1区画の販売について、さまざまな方法で周知を行い販売につなげていきたい。 住民アンケートによる小規模宅地造成事業を推進していく。

基本戦略4

子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり

基本目標

子育て世代の結婚・出産・子育てに関する希望を叶え、子どもたちが夢を叶えられるまちとなるよう教育環境を発展させる。

数値目標の進捗状況

指標名	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標(R6)
婚姻届出数	目安値	件	H30	15	15	15	15
	実績値		11	9	10	8	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	
出生数	目安値	人	H30	20	20	20	20
	実績値		20	14	12	15	
	進捗区分			努力を要する	努力を要する	努力を要する	

総合分析

○人口の自然減に歯止めをかけるため結婚、出産、子育てへの支援や、町の地方創生に非常に重要な役割を持つ蘇南高等学校に対する支援を実施した。

○基本目標に係る重要業績評価指標（KPI）は9項目中1項目が「順調」、2項目が「概ね順調」、4項目が「努力を要する」、2項目が「実績値無し」となった。

○基本目標である婚姻届出数は前年度より減少している。新型コロナウイルスの影響に加え、20代、30代の転出者が前年度より増加したことが要因としてあげられる。出生数については前年度に比べ増加しているが、目標達成とはならなかった。そのため「努力を要する」結果となった。

○具体的な取り組みについての効果はA評価が最も多く、その他取り組みについても概ね良好である。出産、子育て支援、教育の充実に関する取り組みについて、より効果が上がるよう継続的に取り組むことが重要である。田立分園の「おやこのひろば」の利用者が前年度の約5倍（24人→113人）に増加した。利用日の前日申し込みに対応、利用が1時間無料になるリフレッシュ券の配布などが要因として考えられる。

重要業績評価指標（KPI）具体的な取組みの進捗状況

施策4-1 結婚希望の早期実現の促進

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
結婚支援イベント開催数	目安値	回	H30	2	2	2	2
	実績値		1	6	1	0	
	進捗区分			順調	努力を要する	実績値なし	
	進捗状況の分析	目標を下回る結果となった。要因として、参加者のニーズに合ったイベントを開催することができなかったことが挙げられる。					
	今後の取組み	広域連携事業の受注業者に委託し、婚活イベントを開催する。					
結婚支援イベント参加者数	目安値	人	H30	10	10	15	15
	実績値		7	140	4	0	
	進捗区分			順調	努力を要する	実績値なし	
	進捗状況の分析	町事業中止・広域連携事業参加なしだったため実績無し					
	今後の取組み	参加者支援について継続的に行っていく。					

1 出会いの場の創出と結婚サポート体制の充実

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
結婚支援イベントの開催 (広域連携事業・町事業)	○	参加者が不足したため実施無し。	E	来年度委託業者と協議を行い、参加者のニーズに合ったイベントを開催する。

結婚支援イベント参加者への参加費補助	○	町事業 中止・広域連携事業参加者なしだったため実績無し	B	参加者支援について継続的に情報発信を行っていく。
長野結婚支援ネットワーク等への参加	○	結婚支援ネットワークに参加し、県と連携をとることで利用者への支援充実を図るとともに、情報発信に努めたい。	B	今後も継続的に取り組む。
結婚相談所及び結婚時の経済支援の在り方検討	○	結婚新生活事業補助を創設し、支援対象者に周知を行った。	B	結婚新生活補助金 該当者の要件を令和4年度に拡充した。チラシ等を誰が見てもわかりやすいようにし、引き続き情報発信を行っていく。

施策4-2 出産・子育てに対する負担軽減

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
出生数に占める第3子以降の割合	目安値	%	H30	22	23	24	26
	実績値		21	33	50	7	
	進捗区分			順調	順調	努力を要する	
	進捗状況の分析	目標を大幅に下回る結果となった。R3年度より出生数は増加したが、第3子以降の割合が減少している。					
	今後の取組み	定住・子育ての各種施策の展開により、1世帯当たりの子どもの数を人口増となる第3子出生割合の増を目指す。					

1 出産に対するサポートの充実

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
妊婦産婦一般健康診査等の支援	○	母子保健法に基づき一人あたり超音波、追加検査を含む14回分を町受診票または償還払いにより26名に補助している。母子手帳発行時に交付しているため、利用率が高い。	A	実施率100%で住民周知度高く利用率も高い。健診後の支援にもつながっていくため継続実施。
出産祝金の支給	○	一時金的な本事業をあてにするということは考えにくく、直接的な効果は不明確であるが、子育てに係る費用の一助としてのニーズは高い。このほか、国制度でR4.4.1に遡り、孤独や不安を抱える妊婦が安心して妊娠・出産できる環境整備のため、妊娠期から一貫して相談支援を行うとともに、妊娠届時、出生時に、それぞれ5万円の経済支援を行う制度が創設され、出産期の経済支援が拡充された。 令和4年度14名280千円	A	出産1児につき2万円を継続して実施するとともに、創設された、出産応援ギフト、子育て応援ギフトも継続し、出産期の経済負担の軽減を図る。

不妊・不育治療助成	○	<p>夫婦1組に対し1年度1回、通算5回を限度として助成。治療費の9割（限度額50万円）を支給。平成元年には住所要件の見直しを行った。</p> <p>R4.4月から年齢・回数など一定の条件内で不妊治療が保険診療となったことで、本人の実質負担が減ったことで、保険適用とならない町の助成範囲が拡充となった。</p> <p>令和4年度申請2組、助成額638千円の申請があった。</p>	A	<p>不妊、不育には高額な費用がかかるため、治療費の一部を助成し、経済的及び精神的負担軽減を図るため、継続して実施する。</p> <p>R4.4.1から一部治療内容が保険適用となったことで、本人負担が減少し結果的に支援の拡充となったので引き続き支援を継続する。</p>
-----------	---	---	---	--

2 子育てサポートの充実

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
子育て応援給付金	○	<p>令和4年度は47名の家庭に給付を行い、継続的に支援を希望する意見が保護者からは多くあった。</p> <p>今後も給付金事業の検証は図り、支援を図る。</p>	A	<p>給付対象者に事業検証を行い、次年度に向けて検討していく。</p> <p>給付制度については、子育て支援全般としても検証していく。</p>
乳幼児一時預かり	○	<p>令和4年度からこども園の移行に伴い、会場を田立園へ移転した。</p> <p>また、利用希望日の前日申込にも対応ができるよう運営を行った。</p> <p>ママリフレッシュ事業として、一時預かり利用料金の、利用初め1時間500円が4回分無料になるリフレッシュ券を配布することにより、利用者数も増加した。</p> <p>令和3年度利用実績延べ：24名 令和4年度利用実績延べ：113名</p>	A	<p>継続して実施していく。利用者アンケートを実施し保護者の希望に沿った対応ができるように実施していく。</p> <p>ニーズに応じて場所を利用者が選択出来るように体制も含めて検討していく。</p>
おやこのひろば	○	<p>令和4年度からこども園の移行に伴い、会場を田立園へ移転した。</p> <p>コロナ禍の中ではあったが、通常の利用に加えて感染状況を確認しながら、イベントの実施を行った。少子化によりおやこのひろば利用対象者が減少し</p>	A	<p>引き続き保護者が安心して利用ができるよう取り組んでいく。</p> <p>子育てに関する各種相談に応じて必要な支援を展開する。</p> <p>こども園を利用している未満児の利用も検討していく。</p>

		<p>ているため前年度よりも利用延べ人数は減少した。</p> <p>子育て支援事業のアンケートを実施し検証する中で、同年代の子、親と知り合える場所となっていることや、田立園へ移転したことにより施設の環境が整ったことに対し、評価する意見をいただいたため、引き続き子育てを安心してできる環境を確保していく。</p>		
ミニ・ファミリーサポートセンター	○	<p>支援者と利用者のマッチングにより実施するが、支援者確保や利用希望にあった要件が合わず効果的な利用ができていない。</p>	C	<p>支援者の確保を図りつつ、効果的に事業が実施できる体制を図っていく。</p>
ブックスタート事業	○	<p>親と子で本を楽しむことや子どもが本に親しみを持てるよう絵本をプレゼントし、大変喜ばれている。</p>	B	<p>引き続き事業の継続を図る。</p>
保育園児健診	○	<p>法定検査として年2回の内科健診と年1回の歯科健診を実施。</p>	A	<p>継続して実施していく。</p>
新生児訪問	○	<p>母子の心身の状況や養育環境などの把握と子育て支援を目的として生後3か月までの乳児の家庭訪問を保健師・在宅助産師で実施している。乳児家庭訪問全戸事業として交付金対応。令和4年度13人に実施。</p>	A	<p>住民への周知度やニーズからも有効な事業である。産後うつの子エック、虐待防止、予防接種の個別説明の機会としても有効である。在宅助産師は木曾町からお願いしており今後の人材確保が課題。</p>
離乳食教室	○	<p>■子どもすくすく 子どもの健やかな成長に必要な食育を保護者と共有を図りつつ、子育ての相談等に応じている。 同世代の子どもをもつ保護者同士の交流などもできている。</p> <p>■健康しあわせ 乳児期の成長段階に合わせた離乳食の試食を兼ね、参加者同士の交流も図りながら実施。参加延人数25名、事業費47千円。</p>	A	<p>■子どもすくすく 継続的に実施する。少子化に伴い保護者同士の交流も少なくなっているため、教室の開催により保護者間の交流も一緒にできるよう実施していく。</p> <p>■健康しあわせ 子供の健全な育成と子育て支援目的で実施、継続していく必要がある。</p>

産後ケア・2 か月児相談・乳児健診・幼児健診・5 歳児健診事業	○	産後ケアでは、支援の必要な産後の母子のサポートしていく。健診により、児の成長発達を保護者共に確認。出産から子育てまで、健診等で親子と関わりながら保護者の相談、必要な支援に繋げている。	A	継続して出産から子育てまで親子と関わりながら相談、支援を実施していく。
公園の整備	○	町内の遊具の安全点検を年1回実施している。公園の管理（草刈等）は地域等で行い修繕が必要な場合は町が対応している。近年、子どもが集まり遊べる場所の要望があることから、子ども達が安心して遊べる公園整備の検討を行った。	B	遊具点検は安心して利用者が利用できるよう継続的に実施していく。 公園整備は、設置の場所や内容も含めて総合的に検討をしていく。
通園バスの運行	○	<p>■子どもすくすく係 遠距離家庭への支援として、通園バスの運行を町の独自事業として実施した。 令和4年度は、こども園への移行に伴い3路線を貸切バスにて運行を行い、添乗員の配置を実施した。 保護者への事業評価となるアンケートを実施し検証する中で、通園バスについては、継続希望や夏季保育中の運行を希望する意見が多くあったため引き続き運行を行いたい。</p> <p>■元気なまちづくり係 教育委員会部局で運行。保育所の統合に対する対応や子育て支援事業の一環（保護者の負担軽減）として実施している。</p>	A	<p>■子どもすくすく係 遠距離家庭の子育て支援として継続してバス運行を実施する。保護者等の意見を取り入れながら、子育て支援対策に重点に置き少子化対策を図る。</p> <p>■元気なまちづくり係 今後も引き続き実施する。</p>

3 子育て世帯の負担の軽減

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
子どもの医療費無償化	○	平成30年8月から長野県では現物給付方式が採用され、県内の医療機関での窓口無料化が可能となった。(1レプト300円の負担は継続) 南木曾町は18歳まで対象としている。	A	窓口無料化は可能となり、今後他の市町村の状況を注視していく。但し、県外についての窓口無料化は現在の状況では難しい。

乳児一般健康診査	○	母子保健法により乳児の健康を守るため医療機関に委託し健診料金の補助および償還払いで実施。1 カ月健診として実施。	A	交付時に住民への周知必要。医療機関との連携で実施率向上に努め継続して実施する。
保育料第3子減免	○	子育て家庭（多子世帯）の経済的な支援として効果的。 令和4年度 2世帯対象	A	保護者の負担軽減対策と子育て支援の一体的な対策として、継続して実施する。
子育て応援給付金（再掲）	○	子育て家庭の経済的な支援として効果的。	B	子育て家庭の経済的な支援として継続的な支援を検討する。
インフルエンザ等任意予防接種助成事業	○	成人風疹予防接種、小児の流行性耳下腺炎予防接種、1歳～15歳対象のインフルエンザ予防接種、ロタウイルス感染症予防接種の助成を実施。満15歳、18歳のインフルエンザ予防接種を1回に限り無料。R4年度はコロナ感染症との混同を避けるなどの観点から、助成対象を全住民に拡大し行ったため、コロナ前に比べ住民全体への接種率は上がっている。	B	対象者拡大事業が廃止されても、子育て支援として、接種率も高いことからインフルエンザ予防接種は必要と考えられ継続していく。
親子歯科健診	○	幼児期における虫歯予防の推進、保護者の歯の健康に関する意識向上のため子供の3歳児健診に合わせて、歯科健診、歯科保健指導を水野歯科医院に委託して実施。令和4年度 対象48人に対し、3名受診。	C	継続して実施。より魅力的な給食になるよう、郷土料理や四季の行事食等も積極的に取り入れていく。
保育園給食費無償	○	子育て家庭の経済的な支援として効果的。	A	継続して実施。 より魅力的な給食となるよう進める。

施策4-3 教育の充実

指標名 (KPI)	年	単位	基準値	R2	R3	R4	目標 (R6)
総合型スポーツクラブ会員加入率 (小中学生)	目安値	%	H30	70	70	70	70
	実績値		68	67.2	67	67.1	
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	概ね順調	
	進捗状況の分析	スポーツ活動を行っている児童・生徒数の増減で実績値が変動している状況は変わらない。なぎそチャレンジクラブの広報誌等で加入促進を図っているが、目標値に届かない状況である。 小学生加入 108人/166人 中学生加入 84人/120人					
	今後の取組み	スポーツ活動を行うのは、児童・生徒の自発的要因が大きいため、軽スポーツを含め楽しめるイベント等、感染症対策等へのストレス発散・心身の健康を保てるような活動をなぎそチャレンジクラブと共に研究し、加入促進に役立てたい。					
小中学校の1人あたりの年間図書借入数	目安値	冊	H30	85	85	86	88
	実績値		84	68	104	54	
	進捗区分			概ね順調	順調	努力を要する	
	進捗状況の分析	小学生は目標に近い82冊であったが、中学生が16冊となり実績値が下がった。中学校で図書を借りない生徒が増えたことの原因としては、スマホ・タブレットの普及による影響も考えられる。					
	今後の取組み	図書を手に取り向き合う機会が増えるよう、購入図書選定・蔵書方法等の工夫に取り組んでいく。					

地元中学校の蘇南高校への進学率	目安値	%	H30	50	53	55	60
	実績値		43	48	52	48	
	進捗区分			概ね順調	概ね順調	概ね順調	
	進捗状況の分析	中学校3年生を対象に学校紹介、体験入学を実施。多くの生徒に進学先として選ばれるよう学校の魅力を伝えている。令和4年度卒業生42名中20名が蘇南高校へ進学している。個々の進路志向の多様化の中、進捗率では80%を超えている。					
	今後の取組み	蘇南高校を身近に感じに親しんでもらい将来の進学先として選択してもらえるよう、従来のPRに加え、住民課高校と保小中との連携をより進め、高校生と園児児童生徒との交流といった方策を検討していく。なお、R4に実施した海外語学研修の報告を中学生に行なうことを予定している。					

連携大学数	目安値	校	H30	—	—	—	2 (R2~R6)
	実績値		—	2	2	2	
	進捗区分			順調	順調	順調	
	進捗状況の分析	名城大学・名古屋外国語大学との包括連携協定により年間通じて事業を実施できた。					
	今後の取組み	昨年度に続き事業を継続していく。係間の連携を行い、戦略室のみでなく、町全体として関わっていく事業としていくよう役場内部に浸透させる。					

1 多様な価値観を伸ばす教育の推進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
土曜日の教育活動推進事業	○	感染症の影響もあり、公民館・タイムカプセル事業と合わせて計画した「読書発電所見学会」の1回のみ実施。(児童13人・保護者7人) 外活動や密集を回避する等の工夫で年間計画どおり(6回)に実施ができたのではないかな。	B	町内の施設見学の他、貴重な文化資料や自然環境を活かした内容を基本に、多くの児童に参加してもらえるような計画の立案、事業実施に努める。

体験学習の実施	○	感染症に対して、参加者等の安全確保を考慮し、未実施	E	関係各所と連携して、内容等精査・検討・計画、実施に努める。
放課後子ども教室	○	核家族化や少子化により地域で子どもが過ごす場所が少なくなる中で、放課後や長期休暇中の子どもの居場所として効果的であった。(小学校のみ長期休暇開所) 登録者数 小学校：50名 中学校：78名	A	放課後や長期休暇中の子どもの居場所として安心して利用ができるよう継続して実施する。 様々な家庭のニーズに対応できるよう利用者拡大(町内在中の養護学校児童)等の方法を検討していく。
総合型スポーツクラブ支援(再掲)	○	支援として補助金の交付、少年スポーツ事業の委託を継続して行っている。また、令和2年度から町職員1名の出向により、支援が厚くなったことで事業活動等の充実が図られている。	B	2023年2月、なぎそチャレンジクラブは設立から10年が経った。今後を見据え、財政の長期安定、活動内容等のさらなる充実を狙った事業計画等の作成・検討及び事業実施について、積極的に協力する。

2 南木曽の地域性を活かした教育の推進

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
セカンドブック・サードブック事業	○	セカンドブック：小学校入学記念に贈呈(R4.4月/24名) サードブック：中学校卒業記念に贈呈(R5.3月/42名)	A	ブックスタートと合わせ、家庭での読書の定着や子どもたちの豊かな感性や表現力、思考力、想像力、創造力が育つこと、人生の友となる本に出会ってほしい願い・思いを込め、選書本の見直しを定期的に行いながら継続する。
学校給食への地元食材利用(再掲)	○	<p>■総務学校 農林係、地産地消推進会議の協力を得ながら、地元の四季の野菜を食べてもらうことができた。主食である米も地元南部産コシヒカリを使用し、町費で100%補助を行った。</p> <p>■農林 学校給食への食材提供運搬費の補助94千円を実施。</p>	A	<p>■総務学校 地元の旬の野菜、食材等を給食に取り入れることで食の安全やおいしい給食で残菜減、食育に役立てたい。米の購入費を町費全額負担にすることで、保護者負担の軽減を図る。</p> <p>■農林 引続き、運搬補助を実施する。</p>

ALT の設置	○	民間会社に委託し英語指導助手を小中学校、社会人英会話教室に配置し、児童生徒等に生きた英語を身近に捉えてもらうことで習得に活かすとともに、外国の文化や生活習慣を知る良い機会としている。	A	グローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づく体制整備で小中高を通じた英語教育の充実推進のため、引き続き取り組む。
---------	---	---	---	---

3 蘇南高等学校の発展支援

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
同窓会支援事業(蘇南アカデミー・海外語学研修補助・生徒の下宿先の確保)	○	同窓会や下宿受入先管理人と連絡調整しながら、必要な支援を行っている。海外語学研修はコロナ感染症の状況もあったが実施しでき、生徒 12 名が参加した。	A	特色や魅力ある学校づくりを目指し、引き続き関係者の協力を得て、取り組んでいく。令和 5 年度も ICT 活用に対しての支援も実施する。

4 平等な教育機会の確保

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明	事業効果	今後の取組み
クラス数確保のための教員の雇用	○	少人数学級による一人ひとりに応じた指導の充実や発展的学習・補充的学習により学習習慣・生活習慣の定着と基礎学力の向上を図る。町クラス編成基準を 30 人以上(県 35 人以上) 2 クラスとし、県基準に満たない場合は、町単独で教員を雇用。	A	少人数学級によるメリット、デメリットを検証しつつ継続して取り組む。
遠距離通学地域への定期券購入	○	遠距離通学地域生徒(田立地区中学生)への定期券購入の補助を行い教育の振興を図った。	A	JR 南木曾駅・田立駅の利用、公共交通機関を使用することで社会的な学習も兼ねているため、継続して取り組む。
スクールバスの運行	○	地域バスとの調整を図りながら、安全に運行できるよう関係各所と打ち合わせながら取り組んだ。	A	地域バス混乗線との調整を図りながら、安全に運行できるよう関係各所と綿密に打ち合わせながら取り組む。

コミュニティスクールの推進	○	新型コロナウイルス感染拡大防止を講じながら、田植え、稲刈りなど例年どおり実施している事業については、継続的に行った。	A	例年どおり活動の実施していく。また、信州型から国型への移行について県内及び郡内の状況を研究し、中信教育事務所に相談しながら検討していく。
入学祝品の支給	○	小学校入学「鍵盤ハーモニカ 24 人、布製ランドセル 1 人」、中学校入学「体操着」 37 名を支給。	A	学校で使用するものを支給することにより保護者負担の軽減を図れるため継続して取組む。なお、選択肢の増を求める意見もあるため、学校とも相談して新たな祝い品の追加等を検討する。
英語検定等検定料補助	○	英語、数学及び漢字検定にかかる検定料全額を補助。 R2：108 件 R3：79 件 R4：66 件 ※各検定について年度内 1 回に限る。	A	中学生において学習成果の確認や目標をもって検定に挑む等、学力や学習意欲の向上が期待される他、保護者負担の軽減を図るため、継続して取組む。

5 大学・企業等との連携

具体的な取組名	実施状況	実施状況の説明		今後の取組み
大学との連携協定(人材の育成と関係人口の拡大) (再掲)	○	連携協定を結んだ大学生との交流を進め、南木曾中学校生徒との学習支援事業が行われた。オンライン上ではあるが、今後も継続的に取り組んでいく。	B	中学生との学習支援事業は引き続き行う。名城大学では建築学科があるため、空き家対策について興味を示していただいているため情報共有しながら取り組んでいく。
妻籠宿へのゼミ合宿等の誘致	○	歴史文化を研究する学生が妻籠宿を訪れ地域を通じ様々な課題解決方法を検討する等、地元の住民では思いもしない視点での着眼点を期待していたが、研究テーマに合わず未実施となった。	E	大学との協議を行い、外国人観光客が増加する妻籠宿を活動拠点にフィールドワークを実施予定。
町並保存運動の学問の構築	○	当時保存に関わった人への聞き取りや、保存についての記録冊子を参考に研究する必要がある。	E	引き続き、学校が行う地域学習、地域交流活動の支援を行う。

<p>フィールドワークの場の構築</p>	<p>○</p>	<p>桃介記念館や起業の課題を情報提供しながら観光面と移住定住について情報発信について大学生に考えていただき、福沢桃介に関する人物相関図や起業支援冊子を作成した。妻籠宿を中心にとはいかなかったが、全庁的にフィールドワークの場を提供できた。</p>	<p>B</p>	<p>今年度も違った視点で町の課題にスポットを当てた課題研究を進めていく。外国人観光客が増加する妻籠宿を活動拠点にフィールドワークを実施予定。</p>
<p>山本学園(緑誠蘭高等学校)への支援</p>	<p>○</p>	<p>令和2年4月に蘭本校、サテライト校(塩尻、中津川、知立)が開校した。コロナウイルスの影響も受けたが、学校運営は概ね順調である。また、国交付金を利用し燃料価格高騰に対する支援を実施した。</p>	<p>B</p>	<p>引き続き、学校が行う地域学習、地域交流活動の支援を行う。</p>

